

研究機関名：旭川医科大学

作成年月日：2026年6月10日（第1.0版）

承認番号	26056
課題名	医学科1年次の成績：GPA（Grade Point Average）が医師国家試験ストレート合格と医師国家試験自己採点結果に及ぼす影響について
研究期間	西暦2026年7月10日（実施許可日）～2028年3月31日
研究の対象	2015～2019年度に旭川市大学医学部医学科に入学した医学生の方
利用する試料・情報の種類	☐ 診療情報 ☐ 手術、検査等で採取した組織（対象臓器等名： ） ☐ 血液 ☒ その他（1年次GPAと6年間の平均GPA、1年次GPAと医師国家試験自己採点成績、等）
利用予定日	開始日：実施許可日から1ヵ月後
試料・情報の管理について責任を有する者	旭川医科大学 学長 西川 祐司
研究の意義、目的	大学1年次の成績が最終年度の成績と相関することは、国内外において多数報告されており、既知の事実です。本学においても1年次から低成績の状態が持続している学生が一定数認められており、その対応は重要な課題となっています。そこで本課題では、本学において1年次GPAが6年間の平均GPAに与える影響を分析し、さらに医師国家試験ストレート合格との関連を検討することで現状を明らかにすることを目的とします。 本研究は、1年次GPAが医師国家試験ストレート合格に影響するかを明らかにすることで、1年次の成績の適切な解釈と活用に関する議論に実証的根拠を提供できると予測されます。
研究の方法	対象は2015～2019年度に旭川医科大学医学部医学科に入学した542名である。1年次のGPAデータのない編入学生は除外し、6年間で留年等なく医師国家試験に合格した群（ストレート合格群）と、それ以外の群（非ストレート合格群）に分類して検討します。 （1）ストレート合格群と非ストレート合格群の差の検定 1年次GPA、6年間の平均GPAおよび医師国家試験自己採点結果のストレート合格群と非ストレート合格群の差の検定を行い、評価します。 （2）6年間の平均GPAと医師国家試験自己採点結果との相関係数 1年次GPAと6年間の平均GPA、および1年次GPAと医師国家試験自己採点結果との相関係数を求め、相関係数については相関のカラーマップを作成し、評価します。 （3）ストレート合格群と非ストレート合格群の多変量解析 ストレート合格群と非ストレート合格群で、目的変数（従属変数）を「非ストレート合格」とし、説明変数（独立変数）を「1年次GPA」、「6年間の平均

	GPA)、「CBT-IRT)、「統合演習成績」および「医師国家試験自己採点結果」としたロジスティック回帰分析を行います。 ・観察項目および収集する情報 旭川医科大学インスティテューショナル・リサーチ室規定に準拠し、旭川医科大学事務局学務課より各項目のデータを提供して頂いている。全てのデータは個人を特定できない形で匿名化した上で解析を行います。
その他	なし
お問い合わせ先	情報が当該研究に用いられることについて、該当する医学生(卒業生)の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも不利益が生じることはありません。 照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先： 研究責任者： 旭川市緑が丘東2条1-1-1 旭川医科大学インスティテューショナル・リサーチ室 松本 成史 連絡先：0166-68-2618